

わ

が

街

わ

が

故

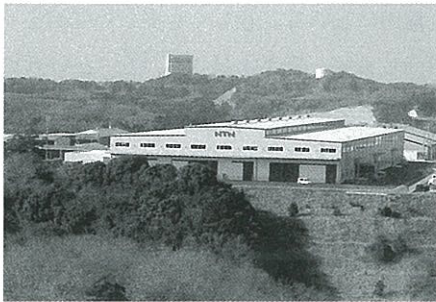
郷

株式会社 NTN紀南製作所  
～ 豊かな水と緑と風土に恵まれて ～

### 1. (株)NTN紀南製作所の紹介

当社は1974年(昭和49年)12月にNTN株式会社の子会社として設立され、翌1975年(昭和50年)4月に和歌山県西牟婁郡上富田町にて操業を開始しました。

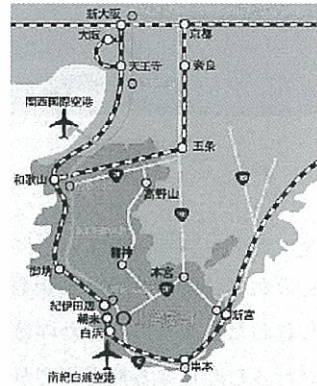
昨年2月には同町内にて第2工場も操業を開始しました。ベアリング製造の前工程である、鍛造・旋削を主に担当し、NTNのグループ会社へ納入しています。現在、従業員は約130名で、独自の鍛造技術を生かして、安定した高品質、他社に負けない低コストを目指して日々取り組み、挑戦を続けています。



工場外観

### 2. かみとんだ上富田町の紹介

「上富田町」の人口は約15,000人で、和歌山県の南西部に位置しており水と緑の豊かな町です。熊野古道「中辺路街道」の入口であり、東・北は田辺市、西・南は白浜町に隣接し、中央部



を富田川が流れています。

気候は黒潮の影響により、年平均気温18度と温暖です。恵まれた気象条件の中で、水稲、うめ、みかん、すももを中心とした農業、神社仏閣と熊野古道をはじめとする歴史的資源や優れた自然環境に恵まれています。交通は、和歌山市まで鉄道で約1時間、南紀白浜空港より東京まで約1時間の距離にあり、また国道42号並びに311号が通り、交通輸送にも恵まれています。

### 3. 周辺の名所

当社の所在地上富田町周辺には、温泉で有名な白浜、梅の産地として名高いみなべなど全国的にも知られた所がありますが、今回は上富田町を中心とした名所・旧跡をご紹介します。

### 3-1 熊野古道

熊野古道は、紀伊半島南部にあたる熊野の地と伊勢や大阪・和歌山、高野および吉野とを結ぶ古い街道のことで、2004年7月に世界遺産として登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する参詣道のひとつ、熊野参詣道の通称です。



古道風景

はるか遠い昔から熊野の山々は修行の場で、土地そのものが厚い信仰を集める聖地でした。

全国に知れわたるようになったのは、平安時代に上皇が行った度重なる熊野詣でがきっかけで、その人気ぶりは、アリが行列を作るようすになぞらえ“蟻の熊野詣で”と例えられるほどでした。熊野詣でとは、<sup>くまのさんざん</sup>熊野三山（<sup>ほんぐうたい</sup>熊野本宮大社、<sup>はやたま</sup>熊野速玉大社、<sup>なち</sup>熊野那智大社の総称）を参詣することをいいます。過去の業を速玉大社、現在の業を那智大社、未来の御利益を本宮大社へと古代人が願ひ、旅立ったのが始まりといわれています。

見渡すかぎりの自然に抱かれた熊野の雄大な景色は、今もなお昔の原型をとどめ、訪れる人々の心を惹きつけてやみません。

京の都から熊野までの長い道中、沿線には、熊野の神様（熊野権現<sup>くまのぐんげん</sup>）の御子神をまつこ祀る小さな「王子社<sup>おんじや</sup>」が区間ごとにあって、宿場や休憩所となっていました。その数の多さから「熊野九十九王子」と呼ばれています。「王子」とは熊野の神様の御子神を御祀りした場所のことで、

大阪から奥熊野までの70里の間、道中の村々にありました。

その中にとりわけ格式の高い「五体王子」と呼ばれる5つの王子社跡があり、その一つにいな稲葉根王子があります。この王子は当社のある上富田町にあり、今もなお古道歩きの見どころとなっております。



稲葉根王子跡

古道歩きの疲れを癒す3つの温泉（川湯温泉・湯の峰温泉・渡瀬温泉）が、本宮のすぐ近くに点在しております。熊野古道と温泉を一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか？

### 3-2 <sup>ひごころうこうえん</sup>彦五郎公園

上富田に伝わる、悲しくも美しい伝説を一つご紹介します。皆さんは「人柱<sup>ひとばしら</sup>」というのをご存じでしょうか。昔、堤や橋、城といった大規模な建築物が水害や敵襲によって破壊されないよう神に祈願するため、生きながら埋められた人身御供<sup>ひとみごころう</sup>のことで、

その頃、富田川は大水が出ればあふれ、人々は被害に苦しんでいました。ある年、住民が相談して堤防を築くのに人柱として生きた人を沈めることになりました。着物に横継ぎをした者を人柱にしようと決まりましたが、実はそのことを言い出した「彦五郎」が横継ぎの着物を着ており、自ら進んで犠牲になったと伝えられています。また、彦さんと五郎さんの二人という



説もあります。

その堤防は「彦五郎堤防」と呼ばれ、その由来を銘記した彦五郎石碑が建っております。



彦五郎の石碑

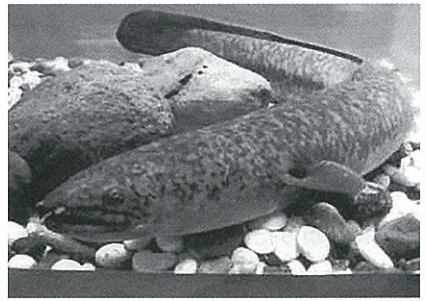
また現在では「彦五郎公園」が造られ人々の憩いの場となっており、毎年富田川友遊フェスティバルでの花火大会、彦五郎イルミネーションフェスタなどが盛大に開催されています。

ここのイルミネーションは、使用済み天ぶら油を精製したバイオディーゼル燃料と発電機を使い、電力の一部を賄っている、地球に優しいイルミネーションです。

### 3-3 富田川

和歌山県南西部を南西に流れる川で、奈良県境の果無山脈の安堵山(1184メートル)に源を発し、白浜町富田で太平洋に注ぎ、延長33キロメートル、流域面積211平方キロメートルです。かつては流路の荘名から上流は来栖川、中流は岩田川、下流を富田川と称しました。上流は中生層を貫いてV字谷をなし、下流は田辺層群で氾濫原を発達させて天井川となっています。田辺市鮎川では川原に温泉が湧出し、下流の白浜町にはオオウナギ(国の天然記念物)が生息しています。

オオウナギ [別名：カニクイ (国の天然記念物)]は普通のウナギと種類が違い、体重は10kgから20kgに達しますが、身長は割合に短いが胴まわりが太く、腹に斑点が多いのが特徴です。



オオウナギ

また、近くには、モンドセレクション 2002年～2008年 7年連続「大金賞」(最高金賞)GLAND GOLD MEDAL受賞の「富田の水」や、地元で親しみ飲まれている「篠原の水」などの名水があります。篠原の水は当社から5キロほど山あいに入った、非常に近い場所にあります。

### 3-4 興禅寺 (通称：だるま寺)

創建は平安前期の昌泰元年(898年)と伝えられ、上富田町指定文化財の聖観世音菩薩立像のほか、一般に「興禅寺文書」と呼ばれる古文書類が百点ほどもあり、和歌山県の古刹として知られています。

近西国観音霊場の第十五番札所として登録されています。回遊式の庭園は四季折々の花を咲かせ、多くの参拝客の目を楽しませています。このほか、昭和48年に建立された白いだるま座像があり、興禅寺は通称「だるま寺」として、町のシンボリック的存在となっています。



興禅寺 (通称：だるま寺)

### 3-5 救馬溪観音

今から約1300年前、修験道の祖「役の行者」によって開山され、応永33年（1426年）小栗判官によって再建されたといわれる紀南地方最古の厄除霊場です。

昔、病にかかった小栗判官が治療に向かう途中、突然愛馬が病に冒され動けなくなりました。判官が、霊験あらたかというこの観音に祈願したところ、愛馬はたちまちに全快し、判官自身の病も次第に快癒したといいます。この伝承が、救馬溪観音の名の由来になっています。



救馬溪観音

敷地面積は約3万坪、大自然の中の大きな一枚岩と一体となる寺院で、山門から本堂までは約1キロ、徒歩約15分です。参道には桜・アジサイ・もみじなど四季折々の彩りが楽しめ、大自然を満喫することができます。

### 3-6 石神梅林

上富田町に隣接した梅の産地・田辺市唯一の観梅園です。標高の高い山地にあるため、景色も良く、特に標高400mの「大蛇峰展望台」からは水平線を遠景に、すり鉢状に白く広がる梅畑を眺めることができます。開花シーズンは2月上旬～3月上旬頃で、山も峠も真っ白に染まり、その香りは辺り一面にたちこめ、間近な春を感じさせてくれます。大蛇峰からは、備長炭の原木（ウバメガシ）に覆われた散策道へ通じていますので、

大自然の中での散歩もお楽しみいただけます。

### 3-7 鬪鶏神社

鬪鶏神社は、通称「権現さん」と呼ばれ、御祭神の中には、熊野三山（熊野本宮大社、熊野那智大社、熊野速玉大社）も勧請されています。熊野権現の三山御参詣に替えるという三山の別宮的存在で熊野信仰の一翼を負っていました。熊野本宮大社が川の増水で流失する以前の社殿の形を再現しています。

また、鬪鶏神社は勝負の神様としても御利益があるともわれています。

鬪鶏神社は、壇ノ浦合戦で源氏を勝利に導いた熊野水軍の伝説が今に伝わる神社です。鬪鶏神社の名の由来は、平家物語壇ノ浦合戦の故事によるもので、源氏と平氏の双方より熊野水軍の援軍を要請された武蔵坊弁慶の父であると伝えられる熊野別当湛増が、どちらに味方をするかの神意を確認するため、神社本殿の前で赤を平氏、白を源氏に見立てた紅白7羽の鶏を闘わせたことによるものです。境内の一角にはその様子を再現した湛増と弁慶像があります。

そのほかにも、神社の社務所には源義経が奉納したといわれている笛（銘白竜）、弁慶産湯の釜、弁慶の父湛増が使ったとされている鉄鳥帽子や鉄扇などの宝物が展示されています。



弁慶と湛増

### 3-8 上富田スポーツセンター

16haという広大な敷地には、野球場、サッカー場、全面人工芝の屋内イベント広場、夜間照明付きのテニスコートなどがあり、遠くには田辺湾を望むことができる総合スポーツセンターで、上富田町民の交流の場として利用されています。

阪神タイガースをホームチームとするプロ野球ウエスタンリーグ公式戦や、プロサッカーチームのセレッソ大阪によるスポーツ少年団との交流、上富田サッカークラブと千葉県柏市のカナリーニョフットボールクラブとの交流試合なども行われ、スポーツを通し様々な人々と触れ合うことで子供たちのコミュニケーション能力の向上にもつながっています。

(株式会社NTN紀南製作所 総務課 江田紀子)